

平成 22 年度第 3 回水産研究所研究評価委員会（事後）評価結果

1. 日 時：平成 23 年 3 月 16 日（水） 10:00～14:30

2. 評価対象研究課題と評価結果

評価項目 評価対象研究課題	目標の達成度				技術の 発展性			技術移転・ 普及性の 具体性			今後の 研究方向		
	A	B	C	D	1	2	3	1	2	3	1	2	3
希少な真珠の生産技術の 開発に関する研究		3			3			1	2				3
黒ノリ優良品種および育苗不良網再生技術開発に関する研究	1	2				3		2	1				3
アサリ等の二枚貝の資源量増大対策		3			1	2		2	1		1	2	
環境対応負荷低減型真珠養殖管理技術の開発	1	1	1		1	2		1	1	1	1	2	
イセエビ種苗の効率的安定生産に関する研究		3			1	2		1	1	1	1	2	
干潟・藻場の回復・再生技術開発	2	1			2	1		2		1	2	1	
赤潮・底泥対策技術開発		3				3		1		2			3
自然の自己修復機能を利用した赤潮防除研究		2	1		2	1		1		2	1	2	
マハタ・クエの種苗生産・養殖高度化技術開発		1	2		1	2		1	1	1			3

注) 表中の数字は研究評価委員3名の評価結果(人数)

【目標の達成度】

- A: 目標以上達成
- B: ほぼ目標通り
- C: 一部不十分
- D: 不十分

【技術移転・普及性の具体性】

- 1: 技術移転の可能性あり
- 2: 製品化・普及への具体性あり
- 3: 技術情報として有効

【技術の発展性】

- 1: 課題全体としての発展性あり
- 2: 一部の中小課題について発展性あり
- 3: 発展性は少ない

【今後の研究方向】

- 1: 新規課題として未完成技術の開発を図る
- 2: 未達成課題については継続して完成させ
- 3: 課題を終了する

3. 評価結果のまとめ

1) 目標の達成度

一部の研究課題に関しては、「一部不十分」との評価でしたが、概ね「目標以上達成」、「ほぼ目標通り」の評価を頂きました。委員の過半数が一部不十分と評価された課題は、「マハタ・クエの種苗生産・養殖技術高度化技術開発」ですが、これは種苗の形態異常の低減を目標とした抜本的な対策の実施を目標としており、この目標の達成が不十分であったために「一部不十分」との評価になりました。この課題に関しては、引き続き後継事業において解決を目指した取り組みを実施することとしています。

2) 技術の発展性

すべての課題で、全体として、あるいは一部の中小課題に関して「発展性あり」の評価を頂きました。

3) 技術移転・普及性の具体性

多くの課題について、「技術移転の可能性あり」、もしくは「製品化・普及への具体性あり」の評価を頂きました。これらに関しては、生産現場での展開を目指して、生産者と連携した普及のための取り組みを進めることとします。技術情報として有効との評価が多かった研究課題に関しては、関連する課題、あるいは今後の計画の中で、更に効果的な成果となるように改善を行うこととします。

4) 今後の研究方向

すべての研究課題で未完成技術の開発、未達成課題の完成を図るとの評価を頂き、評価過程で頂いた委員の意見を参考として、効果的に研究活動を行い、技術の完成に努めます。